

Integrating the Healthcare Enterprise

The IHE Initiative Worldwide

臨床検査項目分類コード(JLAC10)について

日本臨床検査医学会
検査項目コード委員会



IHE Workshop in Tokyo
2011.07.02 Tokyo-Midtown

目次

1. 医療情報システム標準化の必要性 ... P3
2. 臨床検査項目分類コード(JLAC10)とは ... P5
3. JLAC10の運用体制と関連する団体 ... P8
4. JLAC10に関連する標準マスター ... P10
5. JLAC10を普及させるために ... P12

1. 医療情報システム標準化の必要性

- それぞれの医療機関・検査センターごとに固有の臨床検査関連コードが存在
 - ・ 医療機関・検査センターごとに検査項目名称や検査データの構成、単位、基準値が異なる場合が多い
 - ・ 部門毎の業務の効率化を目指している時期はそれでもよかった
- 点から面へ(相互運用性の確保)
 - ・ 医療機関内の個別システムから全体システムに
 - ・ 医療機関内システムから医療機関同士の連係に
- 相互運用性の確保
(平成22年2月 厚生労働省 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第4.1版より抜粋)
 - ・ 医療機関等において段階的に導入されたシステム間や、部門毎に多様なシステムベンダから提供されたシステム間で連携可能 にしておくこと。
 - ・ 医療機関等で医療情報を長期間保存する際に、システム更新を経ても旧システムで保存された医療情報を確実に利用可能にしておくこと。
 - ・ 地域連携等では、医療機関等間における情報の共有化、蓄積、解析、再構築、返信や再伝達等といった場面においても、相互運用性の考え方は重要である。

1. 医療情報システム標準化の必要性

- 固有の臨床検査関連コードで相互運用性を確保するには、それぞれの医療機関・検査センターごとに固有の変換プログラム・変換マスターが必要
 - ・ 医療機関ごとの臨床検査関連コードの変換プログラム・変換マスターによる紐付け
 - ・ 無限大の紐付け ⇒ ITリスク
- 標準化の必要性
(平成22年2月 厚生労働省 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第4.1版より抜粋)
 - ・ このような医療情報の相互運用性を確保するためには、誰もが参照可能かつ利用可能で将来にわたりメンテナンスを継続されることが期待される標準規格(用語集やコードセット、保存形式、メッセージ交換手続等)を利用するか、それらに容易に変換可能な状態で保存することが望ましい。



臨床検査の分野で国内で標準コードと認められているのが、臨床検査項目分類コード(以下、JLAC10)である。

2. 臨床検査項目分類コード(JLAC10)とは

JLAC10の概要

1. JLAC10を設定した目的

- ・ 医療情報システムの普及や医療機関同士の情報交換を円滑に行うため、医療情報システムが標準的に使用する検査項目コードとして設定された。
- ・ 検討の発端は1962年に遡り、1997年に第10回改訂(JLAC10)として公開した。

2. JLAC10の体系

(1) 分析物コード

- ・ 検査対象物質を所定の細則に基づき、5桁の文字列により分類する。

(2) 識別コード

- ・ (1)のコードを検査内容に沿って細分する必要がある場合に4桁の数値により分類する。 (例) ウィルスの分類、アレルギーの分類

(3) 材料コード

- ・ 同一項目における検査材料の別を3桁の数値により分類する。

(4) 測定法コード

- ・ 同一項目における測定法の別を3桁の数値により分類する。

(5) 結果識別コード(結果報告時にのみ使用)

- ・ 一つの検査項目において結果が単独あるいは複数を問わず、結果表現の別を2桁の数値により分類する。

2. 臨床検査項目分類コード(JLAC10)とは

JLAC10の概要

3. 設定例

(1) 設定例

- ・ 髄液単純ヘルペスCF抗体価 5F190-1430-041-141-05

(2) 基本コード体系による分類

- ・ 分析物コード 5F190 (単純ヘルペス)
- ・ 識別コード 1430 (ウイルス抗体)
- ・ 材料コード 041 (髄液)
- ・ 測定法コード 141 (CF法)
- ・ 結果識別 05 (希釈倍率)

4. その他

- ・ ユーザー領域コード
JLAC10(15桁・17桁)で特別定義した医療機関内部でのみ使用するコード。
各要素の先頭文字を‘Z’とする。

2. 臨床検査項目分類コード(JLAC10)とは

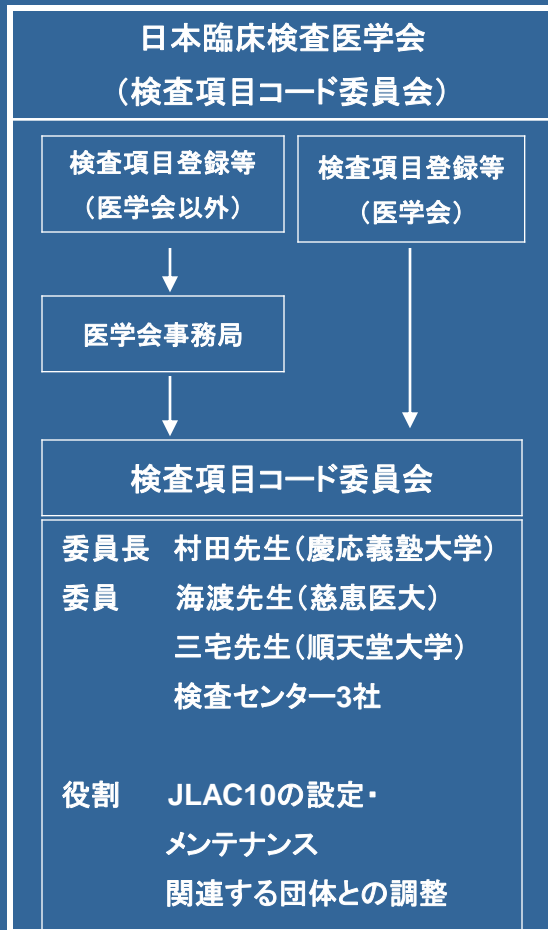
医療情報標準化協議会(HELICS協議会)での審査状況(採択分)

申請受付番号	提案規格名	申請日	採択日
001	医薬品HOTコードマスター HS001 医薬品HOTコードマスター (PDFファイル) (提出団体:(財)医療情報システム開発センター)	2002/03/04	2003/05/23
005	ICD10対応標準病名マスター HS005 ICD10対応標準病名マスター (PDFファイル) (提出団体:(財)医療情報システム開発センター)	2004/05/15	2004/12/28
007	患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書(患者への情報提供) (提出団体:日本HL7協会) HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書(患者への情報提供) (PDFファイル)	2005/03/28	2007/03/16
008	診療情報提供書(電子紹介状) (提出団体:日本HL7協会) HS008 診療情報提供書(電子紹介状) (PDFファイル)	2007/12/25	2008/09/01
009	IHE統合プロフィール 可搬型医用画像 (提出団体:日本医療情報学会) HS009 IHE統合プロフィール「可搬型医用画像」およびその運用指針 (PDFファイル)	2008/01/07	2008/12/01
010	保健医療情報-医療波形フォーマット-第92001部:符号化規則 (提出団体:日本PACS研究会) HS010 保健医療情報-医療波形フォーマット-第92001:符号化規則 (PDFファイル)	2009/01/25	2009/09/30
011	医療におけるデジタル画像と通信(DICOM) (更新申請(提出団体:(社)日本画像医療システム工業会) HS011 医療におけるデジタル画像と通信(DICOM) (PDFファイル)	2009/08/05	2010/01/25
012	JAHIS 臨床検査データ交換規約 (提出団体:保健医療福祉情報システム工業会) HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約 (PDFファイル)	2009/12/07	2010/02/10
013	標準歯科病名マスター (提出団体:(財)医療情報システム開発センター) HS013 標準歯科病名マスター (PDFファイル)	2009/12/18	2010/09/20
014	臨床検査マスター (提出団体:(財)医療情報システム開発センター) HS014 臨床検査マスター (PDFファイル)	2009/12/18	2011/01/31

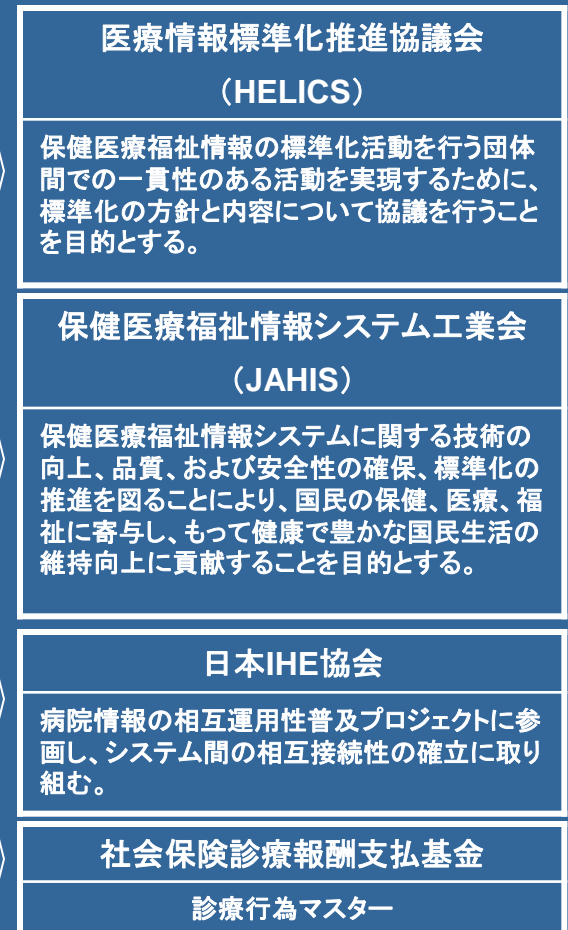
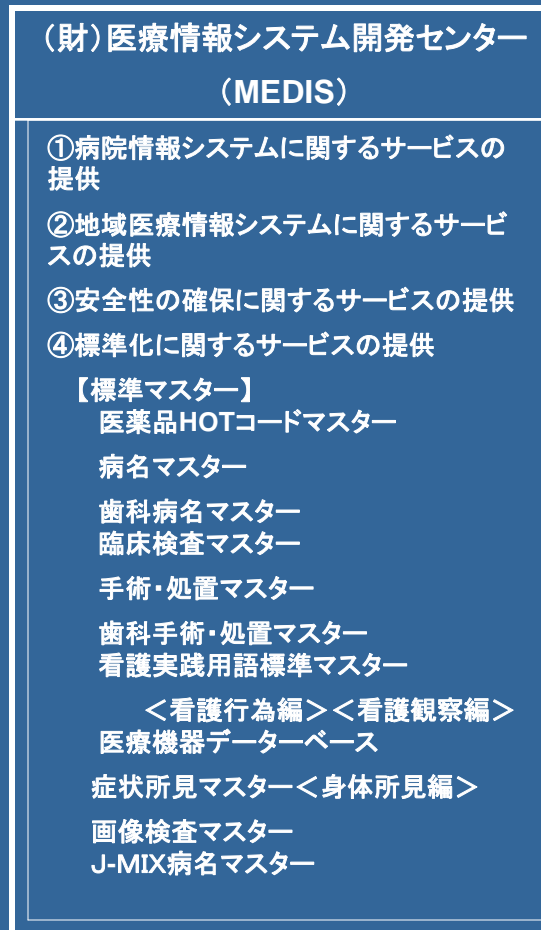
※民間主導の取組として、医療情報標準化推進協議会(Health Information and Communication Standards Board : HELICS協議会)がある。各種の標準化団体・規格制定団体等が会員となっているHELICS協議会が利用目的毎に採択すべき標準規格を推奨し、その利用のための医療情報標準化指針を示している。

3. JLAC10の運用体制と関連する団体

JLAC10の運用体制

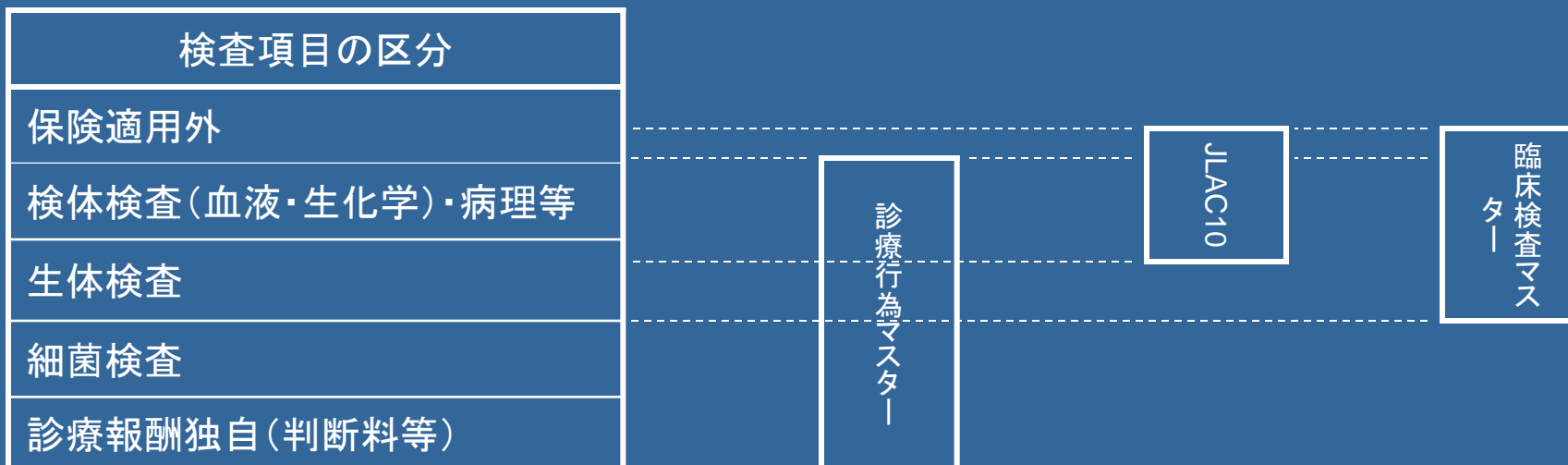


JLAC10に関連する団体(各団体のホームページより抜粋)



3. JLAC10の運用体制と関連する団体

JLAC10に関連するマスター



マスター名	提供団体	ポイント
診療行為マスター	社会保険診療報酬支払基金	・診療行為名称をコード化
JLAC10	日本臨床検査医学会 (検査項目コード委員会)	・検査医学会が対象とする検査項目を体系的にコード化
臨床検査マスター	MEDIS	・診療行為マスターとJLAC10を紐付けたマスター ・検査医学会対象外の項目の診療行為マスターとの紐付けは、JAHISにて実施。日本臨床検査医学会・MEDIS・JAHISの連携による共同運用

4. JLAC10に関する標準マスター

臨床検査マスター(MEDIS)の概要

1. 臨床検査マスターの構成要素

■ 臨床検査項目コード(JLAC10)

… 15桁コード表(5構成要素から結果識別コードを除く)と17桁コード表(結果識別コードを含む)の2つのコード表から構成

■ 診療行為マスター(レセプト作成用コード)

… 112項目のうち、「診療行為コード」・「診療行為名称」・「点数」等の6項目から構成される

2. 臨床検査マスターのコード表

■ 臨床検査マスター(15桁コード表)

変更区分	管理番号	検査コード(初期)	検査コード(自動)	分析物コード	識別コード	材料コード	測定法コード	分析物名	識別名	材料名	測定法名	測定法名(○)	測定法(備考)	標準検査名称	標準検査略称	診療行為コード	診療行為名称	点数	章	区分番号	交番	更新年月日	保険外フラグ	備考
------	------	-----------	-----------	--------	-------	-------	--------	------	-----	-----	------	---------	---------	--------	--------	---------	--------	----	---	------	----	-------	--------	----

■ 臨床検査マスター(17桁コード表)

変更区分	JLAC10T-2(初期)	JLAC10T-2(申込)	分析物	識別	材料	測定法	結果識別(共通)	結果識別(固有)	結果識別(固有)連作	参考結果識別コード	参考単位	保険内	診療行為コード	診療行為名称1	診療行為名称2	点数	章	区分番号	交番	更新年月日
------	---------------	---------------	-----	----	----	-----	----------	----------	------------	-----------	------	-----	---------	---------	---------	----	---	------	----	-------

4. JLAC10に関する標準マスター

新たな取り組みとしての検査方法名称・検査項目名称の標準化

- 検査方法名称・検査項目名称の標準化の検討、推進

 - 推進体制
 - ・ 日本臨床検査標準協議会(JCCLS) 用語委員会
 - ・ 日本臨床検査医学会 検査項目コード委員会
 - ※ JCCLS用語委員会を中心として、JCCLS・日本臨床検査医学会との共同体制で推進する。

 - 検査方法名称・検査項目名称の標準化のためのJCCLS用語委員会
 - ・ 委員長 宮澤先生(日本臨床検査医学会・JCCLS・帝京大学)
 - ・ 副委員長 村田先生(日本臨床検査医学会・JCCLS・慶應義塾大学)
 - ・ 参加団体 日本臨床検査医学会(検査項目コード委員会)
日本臨床化学会
日本臨床衛生検査技師会
日本臨床検査薬協会
日本衛生検査所協会
日本分析機器工業会
- ※ 参加団体は予定

5. JLAC10を普及させるために

関連団体との連携による普及活動

- ・ 各関連団体との連携の強化(検査医学会独自での活動から各関連団体と連携した幅広い活動に)
- ・ 他の標準化コードの利用状況・設定・メンテナンス方法についての情報収集(001:医薬品HOTコードマスター、002:ICD10対応標準病名マスター、JAHISマスター、その他)
- ・ 利用ツールの作成等(例;MEDIS臨床検査マスターのマッピングツール等)

教育活動による普及活動

- ・ 導入されている医療機関での使用例、導入方法の事例
- ・ 設定ルールの事例集
 - － 設定基準(例:未保険項目、計算項目、セット項目、その他)
- ・ 運用についての事例集
 - － 新規項目、方法変更
 - － システム切替
- ・ その他、FAQ

Questions ?



WWW.IHE-J.ORG